

PCE物価指数は高金利政策の長期化を示唆



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① PCE物価指数はインフレ懸念再燃示唆

米商務省が2月29日に発表した1月の米PCEコア物価指数（変動の大きいエネルギーと食品を除いた物価指数）は、前年同月比で2.8%の上昇となり、23年12月の同2.9%の上昇から伸びが減速しました。

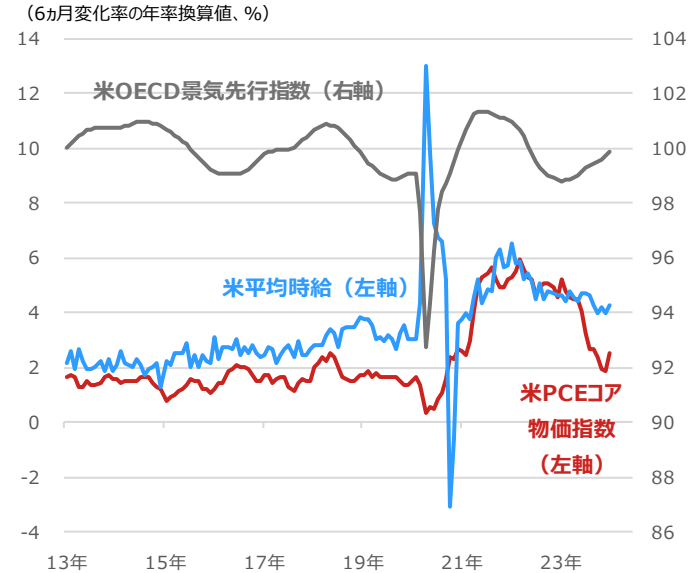
ただ、前月比では0.4%の上昇と、23年1月以来の大幅上昇となりました。足元の物価動向の実勢を示す6か月間の変化率の年率ベースでは、2.5%の上昇となり、FRB（米連邦準備制度理事会）の物価目標の2%を3か月ぶりに上回るなど、今回の結果はインフレ再燃懸念を高める内容だったといえます（右上図）。足元で賃金上昇率がインフレ率を上回り、消費者の高い購買力を背景に米経済がソフトランディングに向かうとみられることは支援材料といえますが、FRBの高金利政策が長期化する可能性がある点には留意が必要です。

ポイント② インフレ懸念くすぶるも株価は最高値

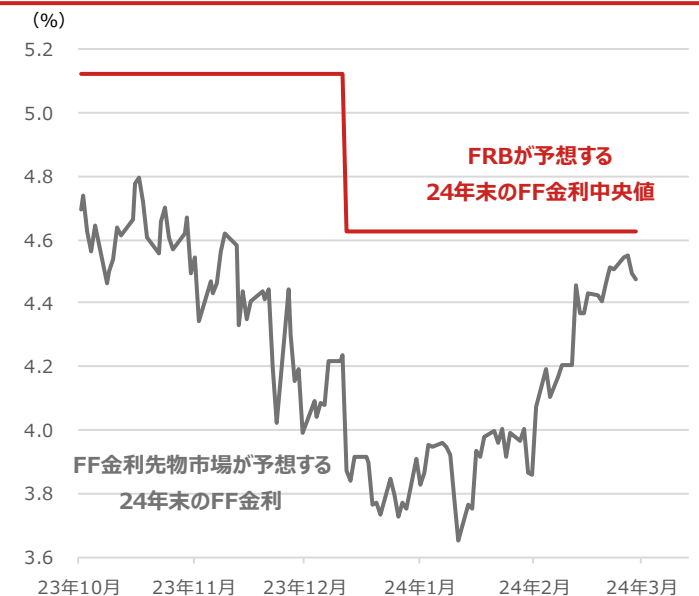
今回の統計でFRBが注視する住宅とエネルギーを除いたサービス業のインフレ率が前月比で0.6%の上昇と、22年3月以来の伸びとなるなど、ここに来て米経済の堅調さやインフレの根強さを示す指標が相次いでおり、市場の過度な利下げ期待は後退しています。FF金利先物市場が予想する24年末のFF金利は、FRBが昨年12月に示した水準にさや寄せする格好となっており（右下図）、現状では利下げ開始は6月以降との見方が大勢を占めています。

もっとも、2月29日にS&P500種株価指数やハイテク株主体のNASDAQ100が最高値を更新するなど、高金利政策の長期化懸念がくすぶる中でも株高となりました。現在の市場は、米利下げの後ずれ懸念よりも米経済や米企業業績の拡大期待が勝っている状況といえ、米国株の堅調地合いは継続しそうです。

米PCE（個人消費支出）コア物価指数・米平均時給の6か月変化率の年率換算値と米OECD景気先行指数



FF金利の24年末時点の予想水準



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。